

# Keiba Global Front Line



## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します

倉田直弘

今月のこの「ラム」の主役は、7月14日・15日の両日にわたって吉小牧の「ザンボースパーク」で開催された「セレクトセール」で、8億7千万円を投資してトップバッターとなつた、シエイク・ファハド・ビン・アブドウラ・アル・ターニー（通称ファハド殿）下（25歳）である。1966年から2007

アブドウラ・ビン・ハリファ・アル・ターニーの子息で、2013年6月にエミール（首長）の座に就いたシェイク・タミム・ビン・ハマド・ビン・ハリファ・アル・ターニーの従兄弟たるという、高貴な御方である。

「インド」のノンディインクヒルにあるテイ  
ヴィッドゲームカレッジで学び、Aレベルと

を取得した後、ヨーロッパ大学のロンドン校に3年間在籍して経営学の学位を得たファハド殿下。競馬の世界に参画したのは2010年で、エージェントのデヴィッド・レードヴァース氏を参謀役として雇い入れ、生産、競走、流通など、サラブレッドにまつわるあらゆる側面に精力的に取り組み、競馬との関与を深めている。

ブリティッシュ・チャンピオン・シリーズのスポンサーであり、アスコット競馬場のオフィシャル・パートナーでもある投資会社カタール・インヴェストメント・ツ・プロジクト・ディベロップメント・ホールディング( QIPCO )の役員を務めるファハド

陛下は、当然のことながら、QIPC〇社の傘下にある競馬組織カタール・レーシングや、生産組織カタール・ブラッドストックの運営にも深く関わっている他、アハマド親王個人の競馬と生産の組織であるパール・ブラッドストックの運営も行なっている。

め入っており、お出迎えする準備はつがなく整ったそうだ。  
そこで御覧になつたゴールドシップの強さと、そして何よりも中山競馬場の雰囲気に感銘を受け、ぜひともここで馬を持ちたいと思われたことが、昨年のセレクトセールに参加された動機であったという。

セレクトセールでは、デイープインパクト通り、今年は1歳馬1頭、当歳馬8頭の合計9頭を総額8億7千万で購買。のみならず今年の牝馬のうち、1頭が産んだ父フランケルの当歳馬を上場。9600万円で売却し、販売者としても日本の市場に関わってい

参謀のレッドヴァース氏によれば、ファーハド殿下は今後益々日本での活動を広げるお考えをお持ちで、北海道に生産牧場を持つことも近い将来の構想に入つて

活き馬の輸入自由化から43年、ジャパンCの創設から33年が経過し、日本における競馬産業の国際化も、新たなステージを迎えていると言えそうである。

JRAロンドン事務所からJRA本部に予  
らの予定は不明しながらも、ファハド殿  
下がこの時季に日本へ行くという情報は